

中国語動詞“拿”の意味分析 —日本語動詞「とる」との比較から—

徐 進

キーワード：“拿”、「とる」、現象素、認知的多義、意味体系

要旨

本稿では、国広（1994）で提案された「現象素」の概念を取り入れて、日本語の「とる」と比較しながら、中国語の動詞“拿 ná”の意味について分析する。分析の結果、“拿”と「とる」は、現象素は基本的に同じだが、「とる」は<把握><獲得><離脱>に焦点が当てられるのに対し、“拿”は単独では<離脱>に焦点が当てられないことが分かった。また、“拿”と「とる」は、ともに<獲得>において最も派生義が多いが、両者は意味の拡張パターンが異なり、対訳できない場合が多いことも分かった。

1. はじめに

中国語動詞の“拿 ná”には多くの意味用法がある。辞書（本論末尾の一覧参照）には、“拿书”（本を手取る）、“拿权”（権力を握る）、“拿事”（取り仕切る）、“拿工资”（給料を受け取る）、“拿冠军”（優勝賞をとる）、“拿人”（人を捕まえる；人を困らせる）、“拿贼”（泥棒を捕まえる）、“拿主意”（腹を決める）などの例が挙げられている。“拿”に近い意味を表すと考えられる日本語動詞は「とる」だが、「とる」の中には“拿”で訳せないものも多い。例えば、「魚をとる」、「貝をとる」、「しみをとる」は、それぞれ“捕鱼”（捕：つかまえる），“采贝壳”（采：摘み取る、掘り出す），“去除污渍”（去除：除く）と言い、“拿”は用いられない。本論では、国広（1994）で提案された「現象素」の概念に基づき、国広（1997）の日本語の「とる」の意味分析を参考にしながら、中国語の“拿”の意味の体系について考察する。

本論の構成は以下の通りである。第2節では、「とる」の分析を例に現象素について概観し、英語の‘take’とも比較しながら、「とる」の意味について述べる。第3節では、中国語の“拿”の意味用法を整理し、“拿”の現象素について考察する。第4節では、“拿”と「とる」の派生義について若干の対照を行う。第5節では、本稿の内容をまとめる。

2. 現象素に基づく「とる」の分析

多義語について、國廣（1982:97）は「同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語」と定義している。しかし、多義として扱われている意味の中には、概念的には関連性が見出しにくいものがある。例えば、国広（1994）によれば、英語の‘leave’は、<（場所を）離れる>と<（人・物を）置き去りにする>という意味を表すが、「両者の間には概念的には共通点も関連性もあるとは言えない。我々がぼんやりと感じている共通点は、『人間がある場所を離れて移動する』という、言語以前の行動そのものである」（国広 1994:22-23）として、「現象素」という概念を提案している。「現象素」について国広（1995）は次のように定義している。

[現象素とは] ある語が指す外界の物、動き、属性などで、五感で直接に捉えることが出来るものである。従来の「指示物」(referent)に近いが、思想的な背景が異なる。単なる外界の存在物ではなく、人間が認知したものである。その認知のしかたは、言語の用法を通じて捉える。（国広 1995 : 40）

国広（1994）は、‘leave’の多義性は「人間が外界を心理的にどのように捉えるか、どのように認知するか」により生ずる「認知的多義」であるとし、日本語の動詞「とる」の多義性についても、同じ観点から分析を行っている。具体的には、「日本語の『とる』は主な意味として<獲得>と<除去>がある。この二つの意味の間には概念的には何の関連性があるとは言えない。むしろ反対である。しかし、手の動作そのもの（「現象素」）は同一である」（国広 1994:23）と述べ、図1のように、「とる」の意味は現象素・意義素・派生義に分けて説明することができるとしている。

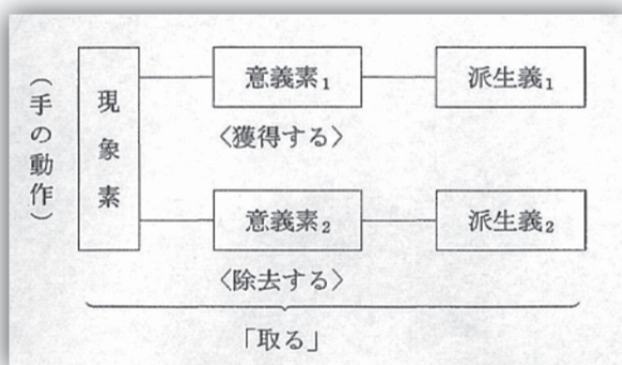


図1 「とる」の現象素・意義素・派生義の関係（国広 1994:26）

国広（1997）は、「とる」の現象素を「どこかに置いてある物を手をつかんでそこから引き離すという動作の全過程」として、図2のように示し、「とる」の<獲得>義と

<除去>義が現象素を媒介して結び付いていると説明している。

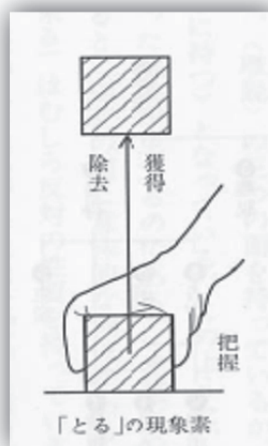


図2 「とる」の現象素 (国広 1997:227)

国広 (1997) はまた、『大辞林第二版』の「とる」の語義分類をもとに、「とる」の意味の体系化 (図3 参照) を行っている。< >内は国広が添えた語義の略記である。(図1、図2では<除去>という語が用いられているが、国広 (1997:229) は<離脱>について「<除去>義とも見ることが出来る」としている。以下では<離脱>という用語を用いる)。

取・る (『大辞林』)

- ①手に持つ。「ペンをとる」<把握>
- ②それまでであった所から自分の側に移す。「貝をとる」<獲得>
- ③それまでであった場所から別のところに移す。「しみをとる」<離脱>
- ④身に負う。引き受ける。受け止める。「責任をとる」<受入>
- ⑤選び出す。選んで決める。「新卒をとる」<選択>
- ⑥作り出す。ある形にしてとどめる。「大豆から油をとる」<生産>
- ⑦数量や物事を知る。おしはかる。「寸法をとる」<情報獲得>
- ⑧場所や時間を占める。「席をとる」<占有>
- ⑨手・足・体などを動かす。ある動作をする。「拍子をとる」<動作>
- ⑩ ① (古義、省略。) ② たとえる。なぞらえる。「例をとる」<例示>

(国広 1997:227-228)

国広 (1997) は、認知的多義の観点から、「とる」の「現象素」を、「Ⅰ 把握」、「Ⅱ 獲得」、「Ⅲ 離脱」の三つの要素に分解している。そして、「焦点化」(事物の一部分に心的注意を集中すること) の概念を取り入れ、各語義はすべてこの三つの要素からの派

生義であるとして、図3のように整理している。



図3 「とる」の意味体系（国広 1997:228）

国広（1994）では、田中（1990）による英語の‘take’の意味分析を参考にしながら、現象素の概念に基づいて「とる」と‘take’の対照を行っている。田中（1990）は、‘take’のコアとなる意味を<あるものをあるところに移す>動きとし、その中の「(1)あるものが元にあったところ」、「(2)あるものが移動するところ」、「(3)移動の手段」のいずれかに焦点を当てることが可能であると述べている。国広（1994）は、それをふまえて、「とる」と‘take’の意味範囲の違い、すなわち認知焦点の違いを、図4のように示している。図4の横向きの矢印線は手に何かを把握していることを表し、<離脱>、<把握>、<獲得>、<目標>は認知焦点を表している（認知焦点の順序は時間的な前後関係を示しているのではない）。

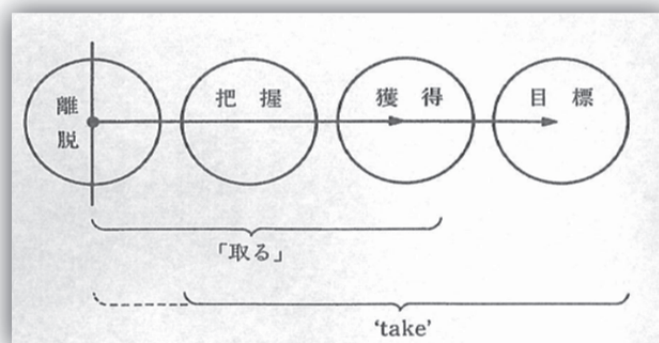


図4 「とる」、‘take’の現象素(国広1994:31)

図4に示したように、＜把握＞、＜獲得＞は「とる」と‘take’の両方の意味範囲に含まれるが、＜目標＞の意味は‘take’にしかない。それは、‘take’は‘John took some cookies to his room.’(ジョンはクッキーを自分の部屋に持って行った)のように「持って行く」の意味で用いることができるが、「とる」は「*ジョンはクッキーを自分の部屋にとった」のように言えないためである(国広1994:32)。また、国広(1994:32)は、「とる」は単独で＜離脱＞の意味を表すが、‘take’が＜離脱＞の意味を表すには、‘off, away’などを補う必要があるとし、‘take’には＜離脱＞の意味が十分に備わっていないとする(図4では‘take’の＜離脱＞部分を点線中表示している)。

従来の語の意味の対照研究では、言語ごとに体系が異なるという認識のもとに、個々の言語の意味分析を行い、その結果を対照するという方法をとることが多かったが、現象素の概念を取り入れることにより、言語ごとに同一の外界現象(共通の枠組み)がどのように捉えられているかという観点からの分析が可能になる。以上を踏まえて次節では、現象素の概念を取り入れて、中国語の“拿”の意味分析を行う。

3. 中国語の“拿”の意味分析

3.1 中国語の“拿”の現象素

“拿”の意味分析を行うにあたり、まず中国語辞書の“拿”の最初にあげられている語義に注目する。辞書の最初に記載されている用法は、“拿”の最も典型的な用法と考えられるからである。

表1 辞書における“拿”の最初の語義

『講談社中日辞典第三版』	(手で) 持つ、つかむ、取る。
『東方中国語辞典』	(手などで) 持つ、とる、持っていく。
『白水社中国語辞典』	(手などで) 持つ、取る、つかむ。
『中国語大辞典』	(手あるいはその他の物を用いて) 取る、持つ、つかむ、運ぶ
『汉语动词用法词典』	用手或用其他方式 抓住 ， 搬动 （东西）。 〔手などで（ものを） つかむ 、 動かす 〕
『现代汉语词典』	用手或以其他方式 抓住 ， 搬动 （东西）。（同上）
『现代汉语八百词』	用手或以其他方式 抓住 或 搬动 。（同上）
『新华字典』	用手取，握在手里。〔手で取る、手に握る〕

〔 〕内の日本語訳は本論筆者による

これらの説明を見ると、“拿”は<把握>の意味があることがわかる。例文の中には、「あるものを元の所から自分の側に移す」という<獲得>の意味を表す次のような例も含まれている。

- (1) 从 书架上 拿 了 一本书。 (『白水社中国語辞典』：964)
 から 本棚-上 とる 完了 1冊 本
 (本棚から本を一冊取った。)

冒頭で挙げた“拿工资”（給料を受け取る）、“拿冠军”（優勝を勝ち取る）、“拿贼”（泥棒を捕まえる）のような例も、<獲得>を表す例である。

上記の“拿”の意味記述には、「つかむ」、「持っていく」、「運ぶ」、「抓住」（手でつかんで固定する）、「搬运」（運ぶ、持っていく）のような説明が見られるが、これらはいずれも便宜的な説明である。実際、(2a)のように“抓住”は、5本の指で圧力をかけてものを固定させるようにしっかりつかむことを表すが、(2b)の“拿住”は「手に取って持つ」動作を表し、「つかむ」動作は表さない。

- (2) a 抓住 袖子 不放 (『白水社中国語辞典』：2075)
 つかむ そで 放さない
 (そでをつかんで放さない。)
 b *拿住袖子不放

また、“拿”は単独では“搬运”（運ぶ、持っていく）という<目標>の意味は「手に持ってどこかに動かす」という移動を明確に表すには、“拿到”（持っていく。到：到達

する)、“拿去”(持って行く。去:行く)のような複合動詞(中国語文法で言う動補構造)の形を用いる必要がある。

- (3) a John took some cookies to his room.
b ジョンはクッキーを自分の部屋に {*とった/持って行った}。
c 约翰 把 曲奇 { *拿 / 拿到 } 房间。
ジョン を クッキー とる とる-到達する 部屋

- (4) 把 书 拿去。
を 本 とる-行く
(本を持って行く。)

辞書の記述では、“拿”が「運ぶ、持っていく」と訳されていることがある。

- (5) 工具 不用 拿 了, 那儿 有。
道具 必要ない 持つ 文末詞 あそこ ある
(道具は持っていかなくてよろしい、むこうにありますから。)
(『中国語大辞典』:2173)

- (6) 这些 书 我 不要 了, 你们 拿 吧。
これら 本 私 いらぬ 文末詞 君たち 持つ 指示
(これらの本はもう要らなくなったので、君たち持って行けよ。)
(『白水社中国語辞典』:964)

これらの例が表すのは「手に持ってその場を離れる」ということである。「ものを手に持ってどこかに移動させる」という意味を表す場合は、前述のような複合動詞を用いる必要がある。

「とる」、「take」との比較で言えば、“拿”が<離脱>の意味を表す場合も、“拿掉”(取り外す。掉:落ちる、なくなる)、“拿下来”(取って下ろす。下来:下に移動する)のような複合動詞を用いる必要がある。“拿”が単独では<離脱>を表さない点、英語の‘take’と似ている。“拿”を用いた(7)が「あるものを自分側に移動させる」の「自分側」に焦点を当てて<獲得>の意味を表すのに対し、“拿掉”、“拿下”を用いた(8)、(9)は結果補語の“掉”、“下”の意味が加わることにより、「元の所から取り外す」の「元の所」に焦点を当てて<離脱>の意味を表す。

(7) 小王 拿 了 墙上 的 画。 (作例)
 王さん とる 完了 壁-上 の 絵
 (王さんは壁にかけてある絵をとった。)

(8) 小王 拿掉 了 墙上 的 画。 (作例)
 王さん とる-外れる 完了 壁-上 の 絵
 (王さんは壁にかけてある絵を取り外した。)

(9) 把 箱子 拿下来。 (『白水社中国語辞典』:966)
 を トランク とる-下りる
 (トランクを取り下ろす)

「服のしみをとる」のような例はそもそも“拿”が使えず、“去掉”（取り除く）のような別の動詞を用いる必要がある。

(10) 去掉 衣服上 的 污垢 (作例)
 取り除く 服-上 の 汚れ
 (服のしみをとる)

中司 (2017) は、動詞の研究はその実際の動作を観察する必要があると指摘し、14名の中国語母語話者を対象に“拿”の実際の動作を調査した。その結果、“拿”の典型的な動作は、“单手手指弯曲，手臂向动作者自己的身体方向移动”（片手で（何かを）指が把握するように曲げ、その手首を動作主側に移動する）というものであると述べている。日本語では「手に取って持つ」が最も近いと考えられる。ここでは、国広 (1997) の「とる」の現象素を参考に、“拿”の現象素を次の図5のように考えてみたい。

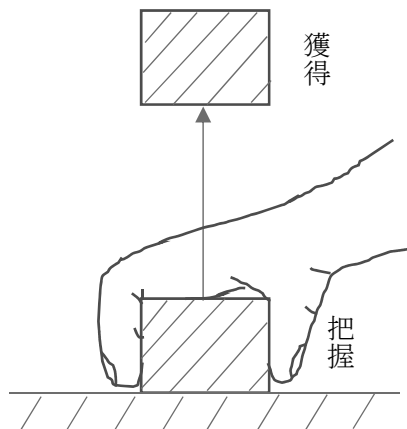


図5 中国語の“拿”の「現象素」

また、先に述べたように、“拿”は単独では、＜離脱＞、＜目標＞の意味を表しにくい。「とる」、「take」と比較する形で意味範囲を示すと、図6のようなになる。点線は他の表現と併用することにより表せることを表す。

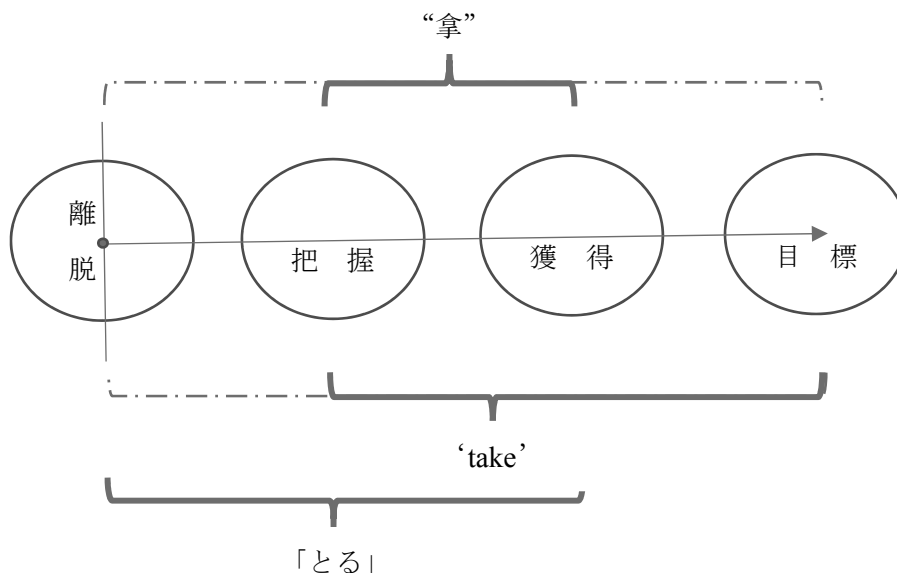


図6 “拿”・「とる」・‘take’の「現象素」

“拿”が＜把握＞と＜獲得＞の意味を表すことは、次の図7に示したような中間点焦点化（「何かを把握する過程」に焦点を当てる）、終着点焦点化（「あるものが移動するところ」に焦点を当てる）として説明できる。「手に取って持つ」、すなわち「何かを把握する過程」に焦点が当たると＜把握＞、「自分の領域に移動する」ことに焦点が当たると＜獲得＞を表す。

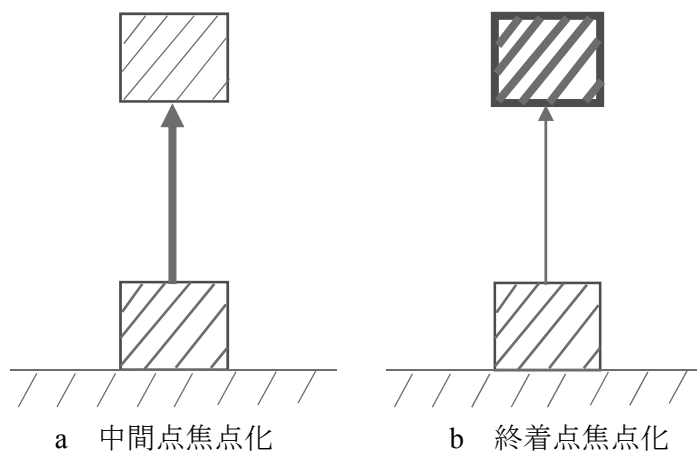


図7 部分焦点化

(11)は、「手に取って持つ」という<把握>を表す例、(12)は「自分の領域に移動させる」という<獲得>を表す例である。

- (11) a 小王 拿 了 一百块钱 放 在 桌上。 (作例)
 王さん とる 完了 100元 置く に 机-上
 (王さんは100元を手に取って机に置いた。)
- b 手里 拿 着 一 本 书。 (『白水社中国語辞典』:964)
 手-中 持つ 持続 1冊 本
 (手に本を1冊持っている。)

- (12) 小王 从 会计 那儿 拿 了 一百块 的 工资。 (作例)
 王さん …から 会計 ところ とる 完了 100元 の 給料
 (王さんは会計から100元の給料を受け取った。)

3.2 “拿”の辞書記述と意味分析

3.1節で述べたように、認知的多義の観点から、“拿”の現象素は、<把握>、<獲得>の二つの要素に分解できる。本節では、この見方に基づき、各中国語辞書の用例を次のように再分類する。

①<把握>

手に持つ。

- (13) 拿 馒头 吃。 (『白水社中国語辞典』:964)
 とる マントウ 食べる
 (マントウを手に取って食べる。)
- (14) 他 手里 拿 着 一 把 扇子。 (『现代汉语词典』:931)
 彼 手-中 とる 持続 1本 扇子
 (彼は手に扇子を持っている。) (日本語訳は筆者による)
- (15) 拿 书 去 学校。 (作例)
 とる 本 行く 学校
 (本を持って学校に行く。)

②<獲得>

ある物を元の所から自分の側に移す。

- (16) 从 书架上 拿 了 一 本 书。(=1) (『白水社中国語辞典』:964)
 から 本棚-上 とる 完了 1冊 本
 (本棚から本を一冊取った。)

③<奪取>

奪い取る。

- (17) 他 一个人 就 拿 了 敌人 的 碉堡。 (作例)
彼 一人 すぐに とる 完了 敵 の トーチカ
(彼一人で敵のトーチカを奪い取った。)

④<捕獲>

捕まえる。

- (18) 昨天 我 拿 了 一个 贼。 (『白水社中国語辞典』:964)
昨日 私 とる 完了 一人 泥棒
(昨日私は泥棒を一人捕まえた。)
- (19) 狗 拿 耗子, 多管闲事。 (『講談社中日辞典第三
版』:1147)
犬 とる ネズミ じゃばる
(イヌがネズミをつかまえるようなもので、余計なおせっかいだ。)

⑤<受取>

手に入れる、受け取る。

- (20) 他 期末考试 拿 了 第一名。 (作例)
彼 期末試験 とる 完了 一位
(彼は期末試験で一位を取った。)
- (21) 一个月 拿 两百块。 (『白水社中国語辞典』:964)
1 か月 とる 200 元
(1 か月に 200 元取る。)

⑥<掌握>

掌握する。

- (22) 拿 权 的 是 他。 (作例)
とる 権力 の (人) だ 彼
(権力を握っているのは彼だ。)
- (23) 你们 车间 谁 拿 事? (『白水社中国語辞典』:964)
君たち 作業場 誰 とる 事
(君達の職場は誰が取り仕切っているの?)

⑦<決定>

考え出す、決める。

(24) 拿 主意。 (『東方中国語辞典』:951)

とる 考え

(考えを決める。)

⑧<迷惑>

人の弱みを握ってつけ込む。

(25) 他 总 爱 拿 人。(『白水社中国語辞典』:964)

彼 いつも よく…する つけ込む 人

(彼はとにかく人の弱みにつけ込む。)

①<把握>義は“拿”の基本義である。例(24)“拿主意”(考えを決める)のような⑦<決定>義は、「あるもの」に注目し、「考えやアイディアのような抽象的なものを持つ」というイメージであり、①<把握>義の派生義と考えられる。

また、何かを把握することはそれを獲得することにつながるため、②<獲得>義は、①<把握>義からの時間的隣接関係の派生と考えられる。そして、③、④、⑤、⑥、⑧の語義は②<獲得>義から派生したものと考えられる。

③<奪取>義

例(17)は、動作主が対象を奪取・占有するという意味になるが、これは、自分の所有物でないものを自分の所有空間に移して取り込むことであるから、②<獲得>義の派生義と考えられる。

④<捕獲>義・⑥<掌握>義・⑧<迷惑>義

例(18)の“拿賊(泥棒を捕まえた)”と例(19)の“狗拿耗子(犬がネズミを捕まえた)”は、逃げたり反抗したりする人・動物などを捕まえるという意味になる。(18)の“拿賊”(泥棒を捕まえた)も、泥棒の手脚を手で拘束することを指している。いずれも、②<獲得>義の派生義と考えてよい。

ただし、“拿”は、“*拿大象”(大象:象)、“*拿蝴蝶”(蝴蝶:チョウ)のように、手で把握するには大きすぎる(あるいは小さすぎる)動物・昆虫などには使えない。「象を捕まえる」、「チョウを捕まえる」ことは、それぞれ“捕大象”(捕:網などで捕まえる)、“抓蝴蝶”(抓:指でつまむ)のように言う。「網で魚をとる」も、網を使った動作であるため、“捕鱼”(捕:網などで捕まえる)のように言い、“拿”は用いない。

例(22)“拿权”(権力を握る)や、例(23)“拿事”(職場など)実権を持つ)のような⑥<掌握>義を表すものは、「権力などを手に入れる」という意味であり、②<獲得>

>義を抽象的な意味にしたものと考えられる。

また、⑧<迷惑>義を表す例(25)“拿人”(人を困らせる)は、「人の弱みを握る」という意味である。人の身体に物理的な働きをかけて行動を抑えるのではなく、精神的な圧力をかけることで自分の思い通りに動くような心理的な縛りをつける。これは④<捕獲>義からの派生義と考えられる。

⑤<受取>義

⑤<受取>義も、②<獲得>義の派生義と考えられる。物理的なものを受け取るのではなく、例(20)の“拿了第一名”(一位を取った)や、“拿奖”(表彰を受ける)、“拿资格证”(資格を取る)など、地位・名誉・資格などの抽象的なものを手に入れることを表す。例(21)の“一个月拿两百块”(1か月に200元取る)も、実際に200元紙幣を手にとることではなく、収入として200元得ることを表す。

以上の各語義の意味関係をまとめると、“拿”の意味体系は図7の通りとなる。図7の体系図は大まかに<具体的—抽象的>の順に配列してある。

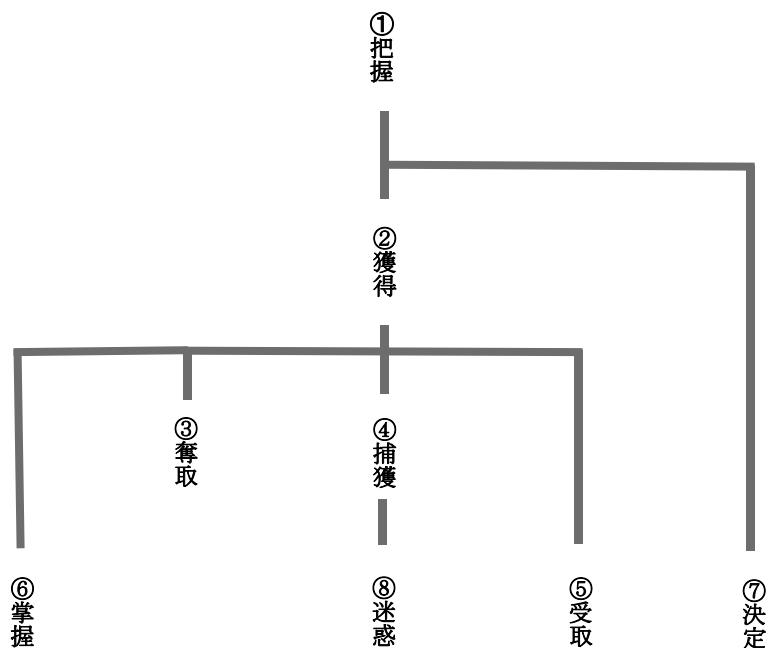


図7 “拿”の意味体系

4. “拿”と「とる」の派生義

本節では、第3節での中国語の分析を踏まえて、日本語の「とる」と中国語の“拿”の派生義の特徴について考える。

「とる」の意味体系（図3参照）と“拿”の意味体系（図7参照）を見ると、両者ともに<獲得>義が最も拡張義が多いことが分かる。しかし、両言語の<獲得>義の拡張義を見てみると、“拿”と「とる」の<獲得>義からの派生は、同じパターンで派生するのではなく、異なる方向に派生している。これは、中国語の“拿”の派生義はあくまで「手にとる・手に持つ」というイメージを基本としているが、「とる」の派生義は「外から自分の領域に移動させる」という、より抽象的なイメージを基本としているためである。『小学館日中辞典第三版』の「とる」の中国語訳（p.1390）を見ると、“拿”（手に持つ）以外に、“取”（受け取る），“执、握、攥”（つかむ、握る），“把住、抓住”（しっかりつかむ）などが挙げられている。中国語は動詞が表す動作の具体性が高く、動作の手段や手の動かし方が変わると、使われる動詞も変わってくる。

日本語の「とる」の場合、図3に示したように、②<獲得>義から、④<受入>義、⑤<選択>義、⑥<生産>義、⑦<情報獲得>義、⑧<占有>義が派生され、また⑤<選択>義から⑩<例示>義が派生されている。表2はそれらに対応する中国語の表現をまとめたものだが、いずれも“拿”ではなく、別の動詞が用いられている。これらの動作は「手に取って持つ」というイメージから外れるためと考えられる。

表2 「とる」の各語義に対応する中国語訳

各語義	例文	中国語訳
②<獲得>	貝をとる	采贝壳。(摘み取る)
④<受入>	責任をとる	负责任。(担う)
⑤<選択>	新卒をとる	选新人。(選ぶ)
⑥<生産>	大豆から油をとる	从大豆中取油。(とる)
⑦<情報獲得>	寸法をとる	量尺寸。(測る)
⑧<占有>	席をとる	占座位。(占める)
⑩<例示>	例をとる	举例子。(挙げる)

(中国語訳は本論筆者による)

中国語の“拿”は、②<獲得>義から、③<奪取>義、④<捕獲>義、⑤<受取>義、⑥<掌握>義が派生され、④<捕獲>義から⑧<迷惑>義が派生されている。そのうち、③<奪取>義（拿敌人的碉堡（敵のトーチカを奪い取る））と⑤<受取>義（一个月拿两百块（1か月200元をとる））は、「とる」と訳せることが多いが、⑥<掌握>義のうち、“拿权”（権力を握る）、④<捕獲>義のうち、“拿贼”（泥棒を捕まえる）のように対象が人間の場合、および⑧<迷惑>義のうち、“拿人”（人の弱みにつけ込む）は「とる」では訳されない。「とる」は「外から自分の領域に移動させる」を基本イメージとするため、<捕獲>義においても、「魚をとる」のように「ある目的のために集める」という意味が感じられる。そのため、“拿贼”（泥棒を捕まえる）のような「人の手足を

手に取って拘束する」という場合には使いにくいのであろう。また、“拿人”（人の弱みにつけ込む）は「人の身体に物理的な働きをかけて行動を抑えるのではなく、精神的な圧力をかけることで自分の思い通りに動くような心理的な縛りをつける」という意味を表すため、「とる」では表しにくいと考えられる。

5. まとめ

本稿では、国広（1994）で提案された「現象素」の概念を取り入れて、日本語の「とる」と比較しながら、中国語の“拿”について分析した。分析の結果、“拿”と「とる」は、現象素は基本的に同じと考えてよいが、「とる」は<把握><獲得><離脱>に焦点が当てられるのに対し、“拿”は単独では<離脱>に焦点が当てられないことが分かった。また、“拿”と「とる」は、ともに<獲得>において最も派生義が多いが、両者は意味の拡張パターンが異なり、対訳できない場合が多いことも分かった。この点についても、具体的な分析が必要であるが、今後の課題としたい。

参照辞書

- 相原茂編（2002）『講談社中日辞典第三版』講談社
相原茂・荒川清秀ほか編（2004）『東方中国語辞典』東方書店
伊地智善継編（2002）『白水社中国語辞典』白水社
香坂順一編（1994）『中国語大辞典』角川書店
小学館・北京商務印書館編（2002）『日中辞典第2版』小学館
吕叔湘主编（1999）《现代汉语八百词 增订本》 北京：商务印书馆
孟琮・郑怀德・孟庆海・蔡文兰编（1999）《汉语动词用法词典》 商务印书馆
《新华字典》（2006）第10版 北京：商务印书馆
中国社会科学院语言研究所词典编辑室编（2016）《现代汉语词典》第7版 北京：商务印书馆

参考文献

- 國廣哲彌（1982）『意味論の方法』大修館書店
国広哲弥（1994）「認知的多義論—現象素の提唱—」『言語研究』106、pp.22-44、日本語学会
———（1995）「語彙論と辞書学」『月刊言語』24（6）、pp.38-45、大修館書店
———（1997）『理想の国語辞典』大修館書店
———（2006）『日本語の多義動詞 理想の国語辞典Ⅱ』大修館書店
田中茂範（1990）『認知意味論—英語動詞の多義の構造—』三友社

中司梢（2017）「基于影像分析的动作动词“拿”的语义研究—与「持つ」的对比分析」
『中国語文法研究』2017年卷、pp.76-91、朋友書店